梅蝶樓國貞画

鶴亭秀賀作

上の巻

戊春
彩画

へ13
3689
9

門 へ13
號 3689
巻 9

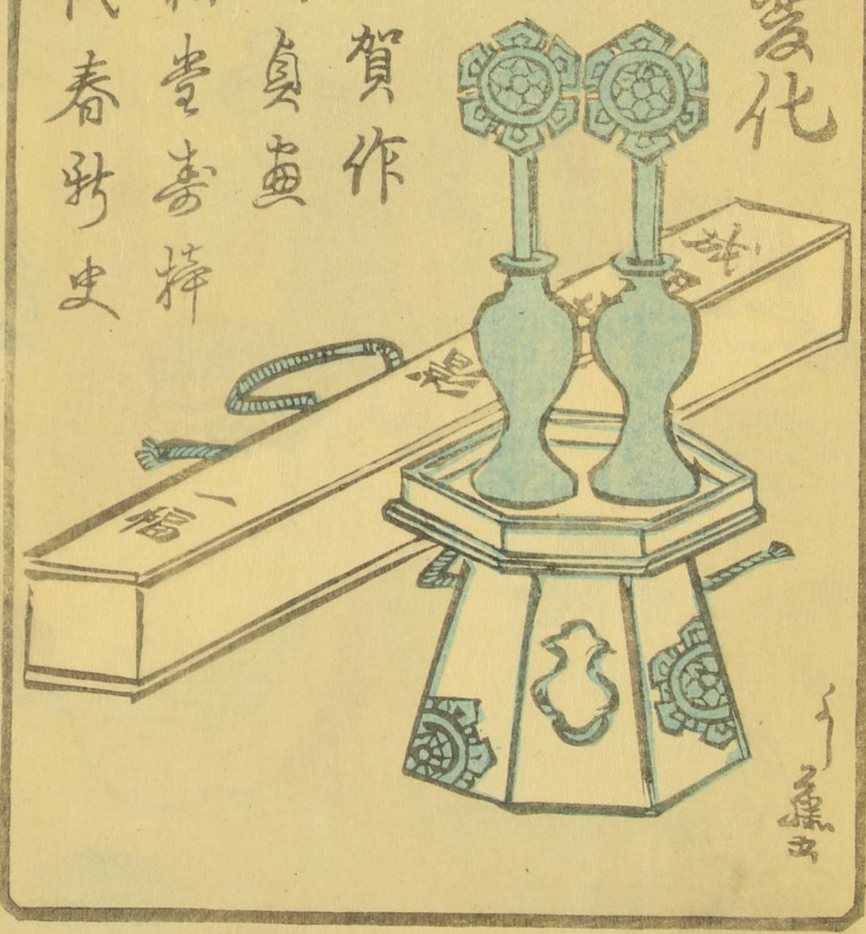
金華七變化 九輯 上之壹

鶴亭秀賀作

歌川國貞畫

金松堂壽梓

壬戌春新刻



金華七變化 第九輯序

或人曰勤書の苦。著述の勞。古人最之を懼る以有哉思慮の命を傷絆酒色の甚し。亦或人曰勤書の娯。著述の樂。古人最之を愛る以有哉思慮の命を養絆良劑より甚し。余想ふ。古人の懼る所最より甚し。亦想ふ古人の愛する所最より甚し。再机上の毫を掌。竟に七變化の九編を著せ。彼後室烏羽玉が怨の一念。飼猫玉兎の託ず。不思議や散形を隱し。黑氣発して空中に雷鳴す。抔と。最浮雲うき中乘也。趣向の綱の糸や切んと苦勞を做さば。實に命をも傷るべし。作去華の綾の糸渡り。首尾能御目に止まらしと娯樂を做さば。亦命を養ふ事も有べし。嗚呼何ぞ何ぞ暗の夜の鉄炮。啻看官の的外ならと想ふの外に絆いなうき。

文久二壬戌春閑鶴

鶴亭秀賀述

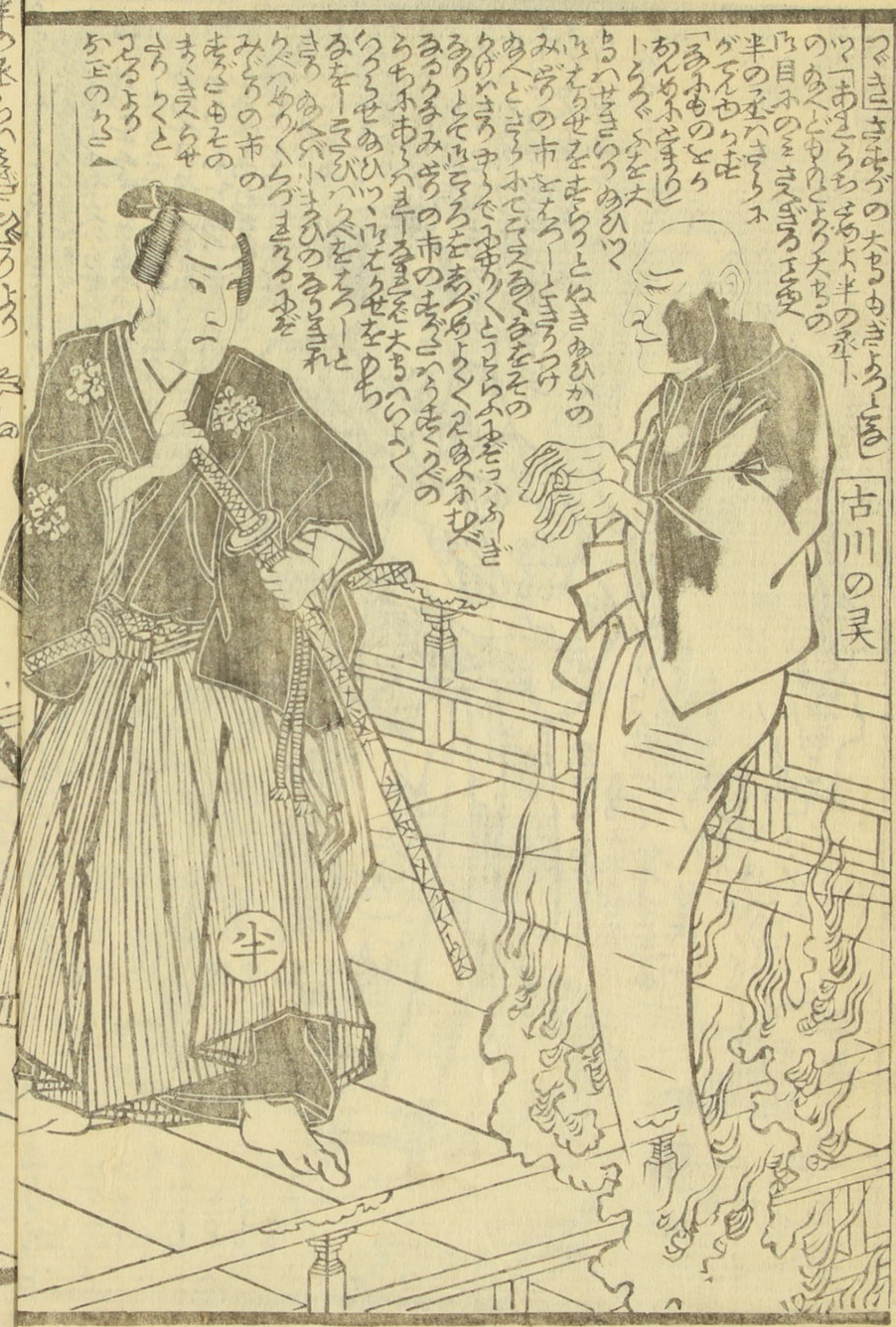
○玉垂れの猫
大内義弘
○衿羯羅童子
○於玉の方

制吒迦童子
○乳母春野
主人の
遺志を
継て同じく
魔道に沈落を
ゑー大守並ふ

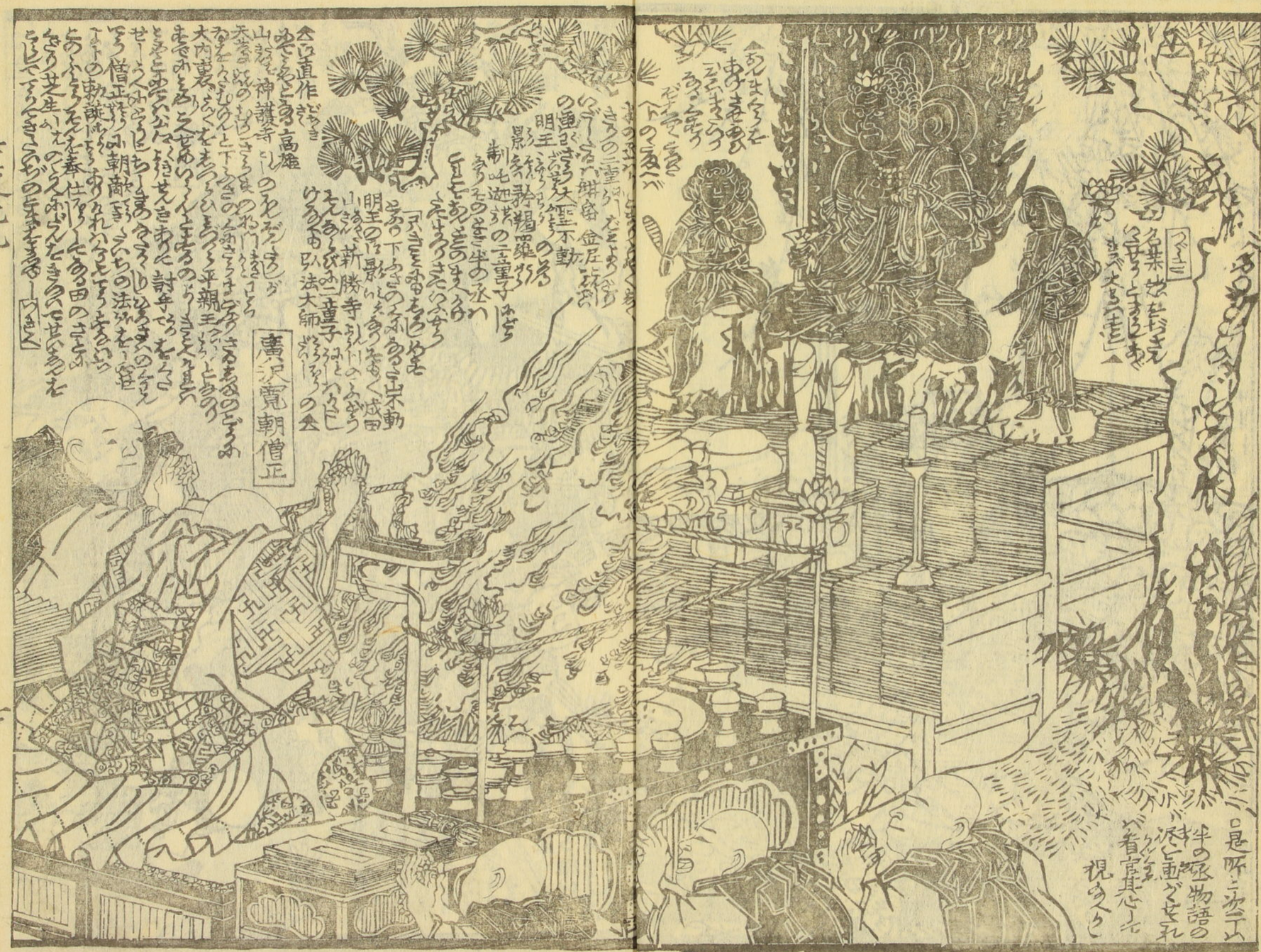
○小森半之丞
大内之介殿の
病症を悟り
成田山不動
尊の
御影を
捧げ一旦
障礙を除く
と虽其故を
以て妖猫の憎
を受禍の
種を釀さの
発端

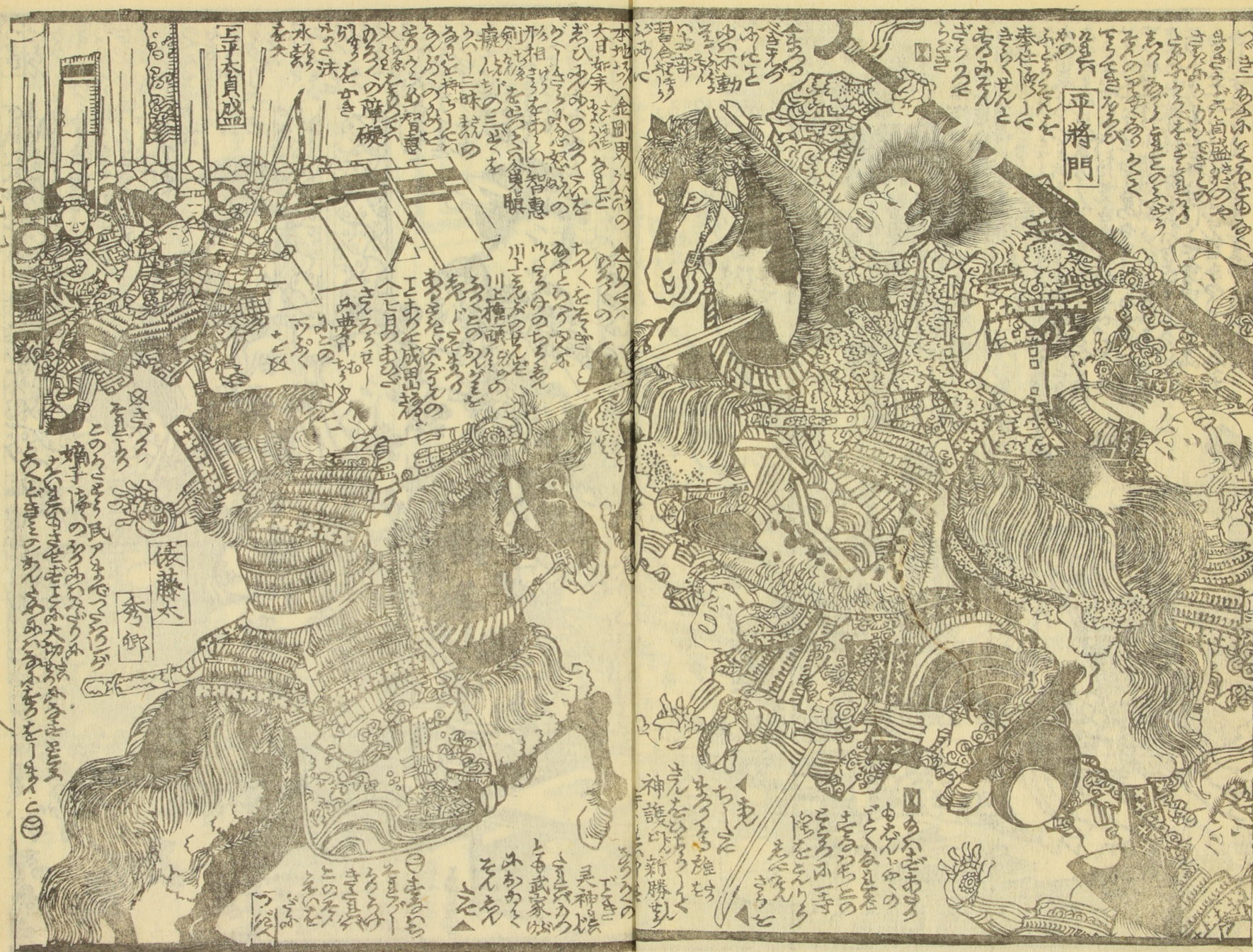
緑の市昊

古川の夫



緑の市夷


廣沢寛朝僧正


平將門
侯藤太
秀郷

大
王

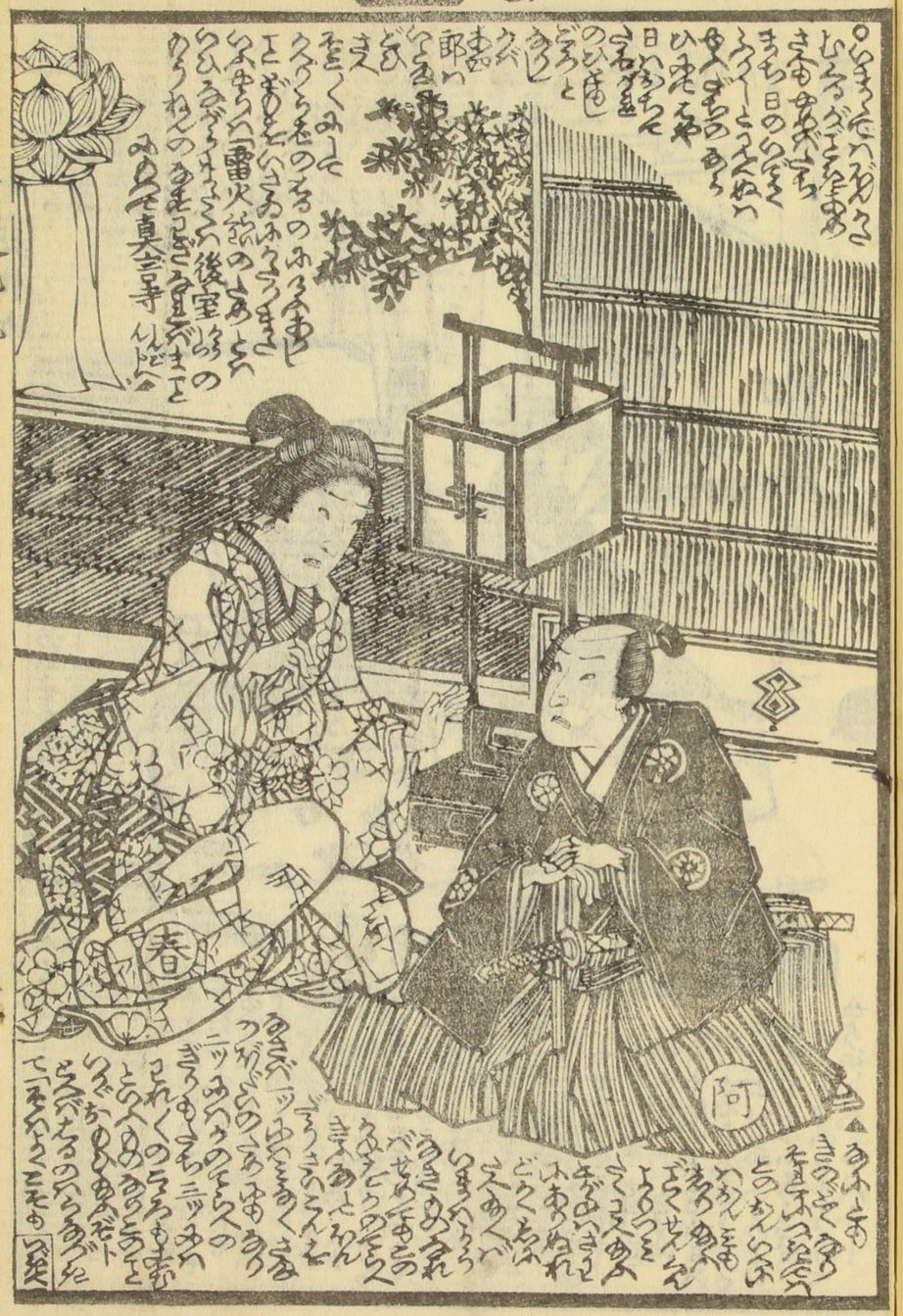
牛

阿
生滅滅為
是生滅法
諸行無常

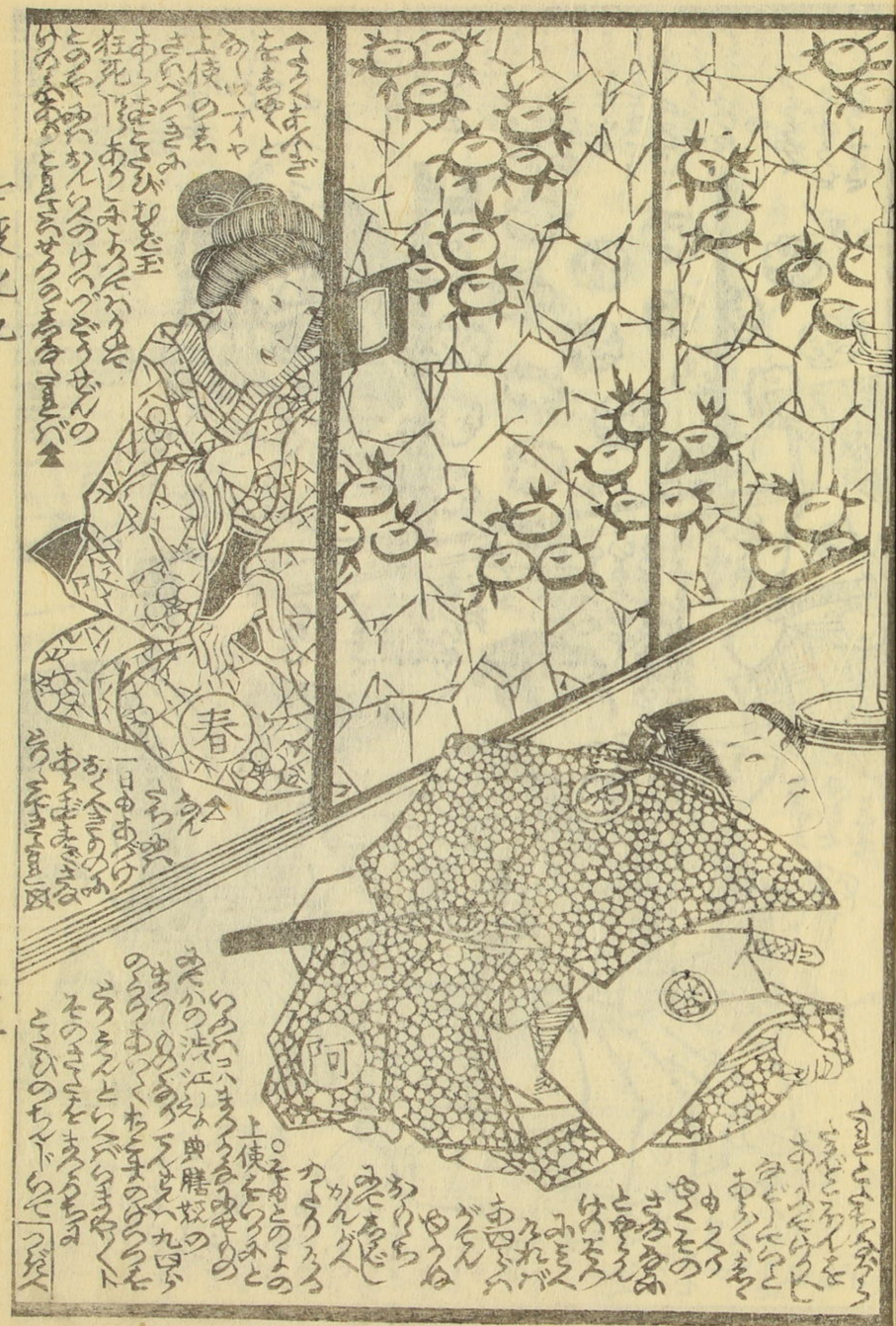
繁昌
光輝
下の巻

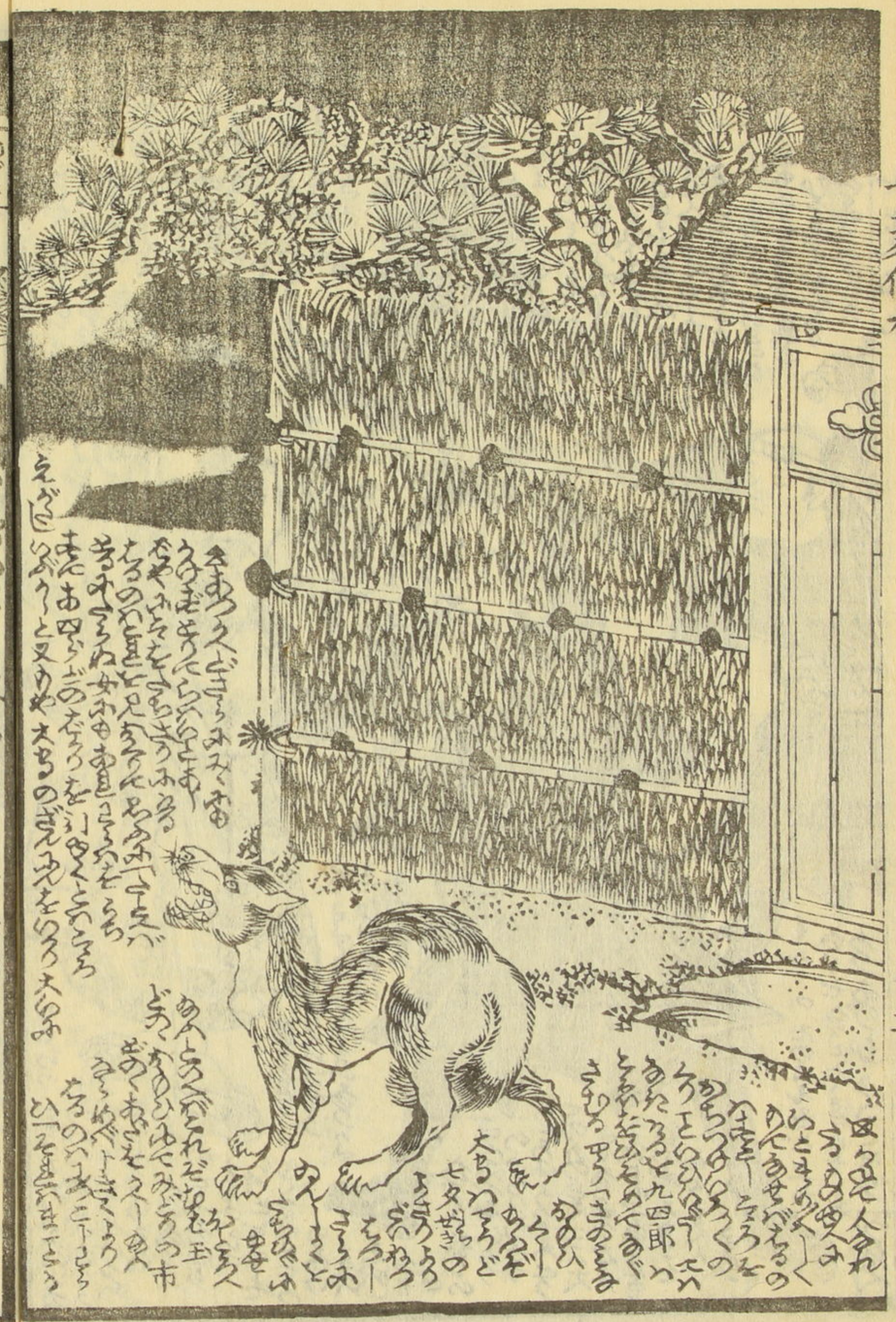
秀賀作
國貞画

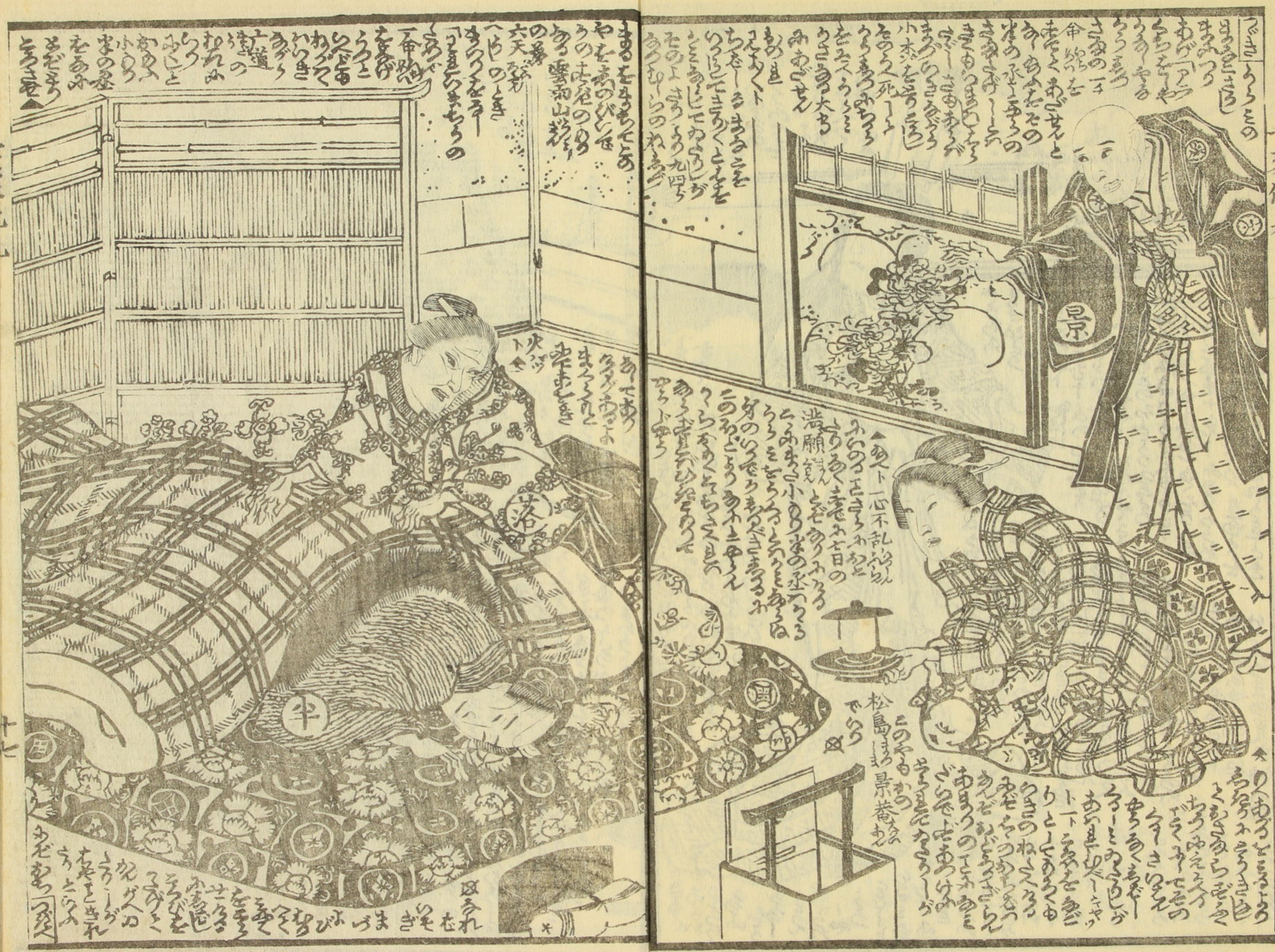
梅蝶樓画
金松堂梅亭作
苔蘚画

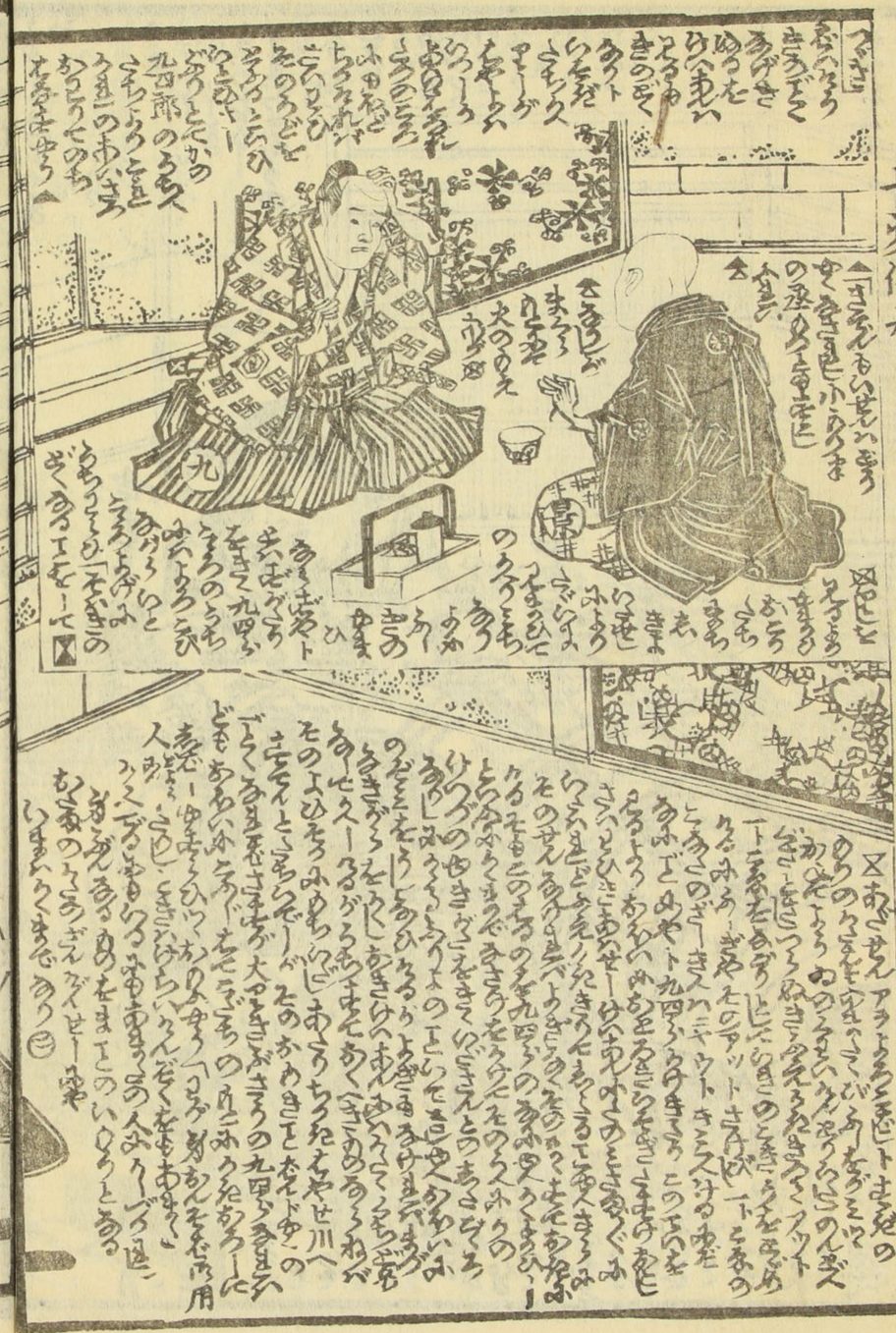

三
春
阿

みせ上使


春
可




景京
松島まつ景養



早瀬橋

九

不動尊御影
落
紋

一壽齋國貞画

鶴亭秀賀著

▲丁数七十五編次編成出板仕候

作者 板元 謹白

文久二壬戌年春新板目録

柳幕魁双紙	初編八 尾張 一壽齋國貞画	鳥水軒長作
都鳥汀松若	二初 柳水亭穂清作 三切同	画
初紅葉小倉色紙	五初同 切同	画 作
蝶衛亀山染	二初同 三同	画 作
義経千本櫻	二初同 三同	画 作
金洞水升石川	三初 勇齋國芳画	花笠文京作
縁綱詞花咲丹	二初 半斎英壽作 切一松斎芳宗画	
當利生一網	二初 歌川國盛画	鳥水軒長作
濡衣女鳴神	二初 三切 一壽齋國貞画	鳥水軒長改 章作
地本紙問屋	江戸両國横山町三丁目	辻岡屋文助
		金松堂